

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社Finatextホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4419 URL <https://hd.finatext.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役CEO (氏名)林 良太
 問合せ先責任者 (役職名)取締役CFO (氏名)伊藤 祐一郎 (TEL)03(6265)6828
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	2,837	89.5	△84	—	△77	—	△173	—
2022年3月期第3四半期	1,497	—	△648	—	△691	—	△728	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △220百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 △839百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△3.55	—
2022年3月期第3四半期	△18.97	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、新株予約権の残高がありますが、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	15,981	9,008	52.9
2022年3月期	15,854	9,189	54.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 8,449百万円 2022年3月期 8,585百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	3,815	40.0	△482	—	△483	—	△599	—	△12.29	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1 社 (社名) 株式会社スマートプラスクレジット、除外 1 社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期3Q	49,247,556株	2022年3月期	48,754,628株
2023年3月期3Q	—	2022年3月期	—
2023年3月期3Q	48,890,515株	2022年3月期3Q	38,411,914株

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、「金融をサービスとして再発明する」をミッションに掲げております。このミッションのもと、金融サービス事業者向けの次世代クラウド基幹システムの提供等を通じて、パートナー企業とともに人々にとって遠い存在である金融サービスを暮らしに寄り添ったものを目指すことを目指しております。

今般、日本の経済は、新型コロナウイルス感染症の第8波の懸念が生じながらも、政府や日銀による各種経済政策の効果も相まって、持ち直しの兆しが見え始めてきましたが、世界的な金融引き締め等による物価の高騰、急激な円安等、景気の先行き不透明な状況が続いております。しかしながら、金融サービスにおけるデジタルトランスフォーメーションの流れは衰えることなく、当社グループが提供するサービスのニーズもより一層高まっていると認識しております。

このような事業環境のもと、当第3四半期連結累計期間においては、継続的な事業成長を実現するため、引き続き人材採用や機能拡充に積極的に取り組んでまいりました。

この結果、前連結会計年度末以降、金融インフラストラクチャ事業及びフィンテックソリューション事業の保守運用業務が拡大したこと、ビッグデータ解析事業のデータライセンス契約件数が増加したことにより、ストック収益が拡大し、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,837,161千円（前年同期比89.5%増）、営業損失84,195千円（前年同期は648,096千円の営業損失）、経常損失77,511千円（前年同期は691,933千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は173,768千円（前年同期は728,819千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

(i) 金融インフラストラクチャ事業

金融インフラストラクチャ事業では、金融サービスを運営するために必要となる複雑な基幹システムを、クラウド上でSaaS型のシステムとして顧客に提供するものであります。

証券インフラストラクチャビジネスでは、サービス提供しているパートナーへの保守運用サービス、導入合意済みのパートナーへの初期導入支援に注力いたしました。当第3四半期連結累計期間においては、前連結会計年度にサービス提供を開始したパートナーからの保守運用業務によるストック収益が、引き続き売上高の拡大に寄与しました。サービスの初期開発については、株式会社セブン銀行が、当社グループの証券ビジネスプラットフォームである「BaaS」を利用し、「Myセブン銀行」アプリを通じて、買い物ついでに投資ができるサービス「お買い物投資コレカブ」をローンチしました。この結果、「BaaS」上での稼働サービス数は7サービス（前連結会計年度末時点：5サービス）となっております。

保険インフラストラクチャビジネスでは、新規パートナーの獲得に向け、当社グループの保険基幹システムである「Inspire」の機能の拡充と、合意済みのパートナーへの「Inspire」の初期導入支援に注力いたしました。当第3四半期連結累計期間においては、初期導入支援として、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、東京海上日動火災保険株式会社及びエムエスティ保険サービス株式会社へ「Inspire」を導入いたしました。その結果、「Inspire」上での稼働社数は8社（前連結会計年度末時点：4社）となっております。

コスト面については、証券インフラストラクチャビジネス及び保険インフラストラクチャビジネスともに、将来のビジネス拡大を見据え、引き続き人材採用、機能拡充の先行投資を行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の金融インフラストラクチャ事業の売上高は1,281,420千円（前年同期比200.4%増）、セグメント損失は402,602千円（前年同期は787,358千円のセグメント損失）となりました。

(ii) フィンテックソリューション事業

フィンテックソリューション事業では、金融機関向けにデジタルトランスフォーメーション及びデジタルマーケティングの支援を行っております。

ソリューションビジネスでは、主に前連結会計年度にシステム構築を支援した、株式会社三菱UFJ銀行「Money Canvas」の追加機能拡充の支援等を進めました。

以上の結果、新プロジェクトからのフロー収益及びストック収益が拡大し、当第3四半期連結累計期間のフィンテックソリューション事業の売上高は817,054千円（前年同期比52.4%増）、セグメント利益は140,377千円（前年同期比340.6%増）となりました。

(iii) ビッグデータ解析事業

ビッグデータ解析事業は、ビッグデータを保有する企業のデータ利活用の促進を支援しており、企業の持つビッグデータを機関投資家や官公庁に提供するデータライセンスビジネスや、企業のデータ利活用を支援するデータ解析支援ビジネスを行っております。

データライセンスビジネスでは、機関投資家向けにオルタナティブデータを提供する「Alterna Data」において、レポートサービス及びウェブポータルサービスの拡充を行いました。

以上の結果、「Alterna Data」の契約件数が伸長し、当第3四半期連結累計期間のビッグデータ解析事業の売上高は738,686千円（前年同期比38.1%増）、セグメント利益は154,280千円（前年同期比29.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産合計は15,981,094千円となり、前連結会計年度末に比べて126,807千円増加いたしました。

流動資産は15,577,063千円となり、前連結会計年度末と比較して42,984千円減少いたしました。これは主に、契約資産が90,046千円、証券業における預託金、信用取引資産、並びに短期差入保証金があわせて67,489千円、流動資産のその他に含まれる営業貸付金が29,317千円増加した一方で、現金及び預金が310,282千円減少したこと等によるものであります。固定資産は404,031千円となり、前連結会計年度末と比較して169,792千円増加いたしました。これは有形固定資産が96,693千円、無形固定資産が63,264千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は6,972,494千円となり、前連結会計年度末と比較して307,334千円増加いたしました。

流動負債は6,891,562千円となり、前連結会計年度末に比べて312,825千円増加いたしました。これは主に、流動負債のその他に含まれている預り金が241,331千円増加したこと等によるものであります。固定負債は45,002千円となり、前連結会計年度末に比べて7,008千円増加いたしました。これは長期借入金の返済により37,500千円減少した一方で、資産除去債務が27,900千円、繰延税金負債が16,608千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は9,008,600千円となり、前連結会計年度末に比べて180,526千円減少いたしました。これは主に、資本剰余金が1,799,666千円増加した一方で、資本金が1,776,854千円、親会社株主に帰属する四半期純損失により利益剰余金が173,768千円、非支配株主持分が43,028千円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,792,996	5,482,713
売掛金	474,883	495,636
契約資産	32,750	122,796
証券業における預託金	5,521,000	5,351,000
証券業における信用取引資産	3,035,643	3,251,209
証券業における短期差入保証金	529,725	551,648
未収入金	55,436	63,110
その他	177,612	258,947
流動資産合計	15,620,047	15,577,063
固定資産		
有形固定資産	3,284	99,978
無形固定資産	62,329	125,593
投資その他の資産	168,625	178,459
固定資産合計	234,239	404,031
資産合計	15,854,286	15,981,094

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,300	36,499
契約負債	110,064	126,920
証券業における預り金	2,082,188	1,874,730
証券業における信用取引負債	813,203	485,478
証券業における受入保証金	2,850,751	3,386,053
1年内返済予定の長期借入金	100,500	56,250
未払法人税等	73,389	89,490
賞与引当金	-	38,267
その他	526,340	797,871
流動負債合計	6,578,737	6,891,562
固定負債		
長期借入金	37,500	-
資産除去債務	-	27,900
繰延税金負債	493	17,102
固定負債合計	37,993	45,002
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	29,289	35,929
その他の責任準備金	19,139	-
特別法上の準備金合計	48,428	35,929
負債合計	6,665,159	6,972,494
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,847,112	70,258
資本剰余金	10,432,764	12,232,430
利益剰余金	△3,702,767	△3,876,536
株主資本合計	8,577,110	8,426,152
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	169	153
繰延ヘッジ損益	-	12,049
為替換算調整勘定	8,534	10,664
その他の包括利益累計額合計	8,703	22,867
新株予約権	5,414	4,709
非支配株主持分	597,898	554,870
純資産合計	9,189,127	9,008,600
負債純資産合計	15,854,286	15,981,094

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	1,497,478	2,837,161
売上原価	657,181	1,215,140
売上総利益	840,297	1,622,021
販売費及び一般管理費	1,488,393	1,706,217
営業損失(△)	△648,096	△84,195
営業外収益		
受取利息	77	3,438
受取配当金	2	-
業務受託料	631	-
為替差益	-	2,644
消費税等差額	-	1,379
その他	425	2,822
営業外収益合計	1,136	10,285
営業外費用		
支払利息	3,219	1,077
為替差損	3,690	-
株式交付費	35,450	-
創立費	-	1,899
その他	2,612	623
営業外費用合計	44,972	3,600
経常損失(△)	△691,933	△77,511
特別利益		
債務免除益	22,290	-
新株予約権戻入益	-	158
その他	4,334	-
特別利益合計	26,624	158
特別損失		
減損損失	135,665	26,906
金融商品取引責任準備金繰入	-	6,639
その他	-	1,574
特別損失合計	135,665	35,121
税金等調整前四半期純損失(△)	△800,973	△112,473
法人税、住民税及び事業税	40,527	122,913
法人税等調整額	2,108	1,210
法人税等合計	42,635	124,124
四半期純損失(△)	△843,609	△236,598
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△114,789	△62,829
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△728,819	△173,768

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△843,609	△236,598
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	△15
繰延ヘッジ損益	-	12,049
為替換算調整勘定	4,414	4,225
その他の包括利益合計	4,401	16,259
四半期包括利益	△839,207	△220,338
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△726,607	△159,605
非支配株主に係る四半期包括利益	△112,599	△60,733

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年6月22日開催の定時株主総会の決議に基づき、2022年11月26日付で減資の効力が発生し、資本金1,797,112千円、資本準備金を9,415,952千円減少し、その全額をその他資本剰余金に振り替えております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が70,258千円、資本剰余金が12,232,430千円となっております。

なお、株主資本の合計金額への影響はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	金融インフラ ストラクチャ 事業	フィンテック ソリューション 事業	ビッグデータ 解析事業	計		
売上高						
証券インフラストラクチャ ビジネス	276,257	—	—	276,257	—	276,257
保険インフラストラクチャ ビジネス	143,397	—	—	143,397	—	143,397
クレジットインフラ ストラクチャビジネス	—	—	—	—	—	—
マーケティングビジネス	—	138,965	—	138,965	—	138,965
ソリューションビジネス	—	397,136	—	397,136	—	397,136
データライセンスビジネス	—	—	492,516	492,516	—	492,516
データ解析支援ビジネス	—	—	42,318	42,318	—	42,318
顧客との契約から生じる 収益	419,654	536,101	534,834	1,490,590	—	1,490,590
その他の収益	6,888	—	—	6,888	—	6,888
外部顧客への売上高	426,542	536,101	534,834	1,497,478	—	1,497,478
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	426,542	536,101	534,834	1,497,478	—	1,497,478
セグメント利益又は損失(△)	△787,358	31,862	119,150	△636,345	△11,750	△648,096

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△11,750千円は、報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額 △11,750千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	金融インフラ ストラクチャ 事業	フィンテック ソリューション 事業	ビッグデータ 解析事業	計		
売上高						
証券インフラストラクチャ ビジネス	534,539	—	—	534,539	—	534,539
保険インフラストラクチャ ビジネス	453,716	—	—	453,716	—	453,716
クレジットインフラ ストラクチャビジネス	124,586	—	—	124,586	—	124,586
マーケティングビジネス	—	81,310	—	81,310	—	81,310
ソリューションビジネス	—	735,743	—	735,743	—	735,743
データライセンスビジネス	—	—	695,719	695,719	—	695,719
データ解析支援ビジネス	—	—	42,967	42,967	—	42,967
顧客との契約から生じる 収益	1,112,842	817,054	738,686	2,668,583	—	2,668,583
その他の収益	168,578	—	—	168,578	—	168,578
外部顧客への売上高	1,281,420	817,054	738,686	2,837,161	—	2,837,161
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,281,420	817,054	738,686	2,837,161	—	2,837,161
セグメント利益又は損失(△)	△402,602	140,377	154,280	△107,944	23,748	△84,195

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額23,748千円は、報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額23,748千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第2四半期連結会計期間より、これまで「フィンテックソリューション事業」に含めておりましたクレジット事業について、インフラストラクチャビジネスの売上比率が高まり始めており、今後ますます当事業におけるインフラストラクチャビジネスへの依存度が高まることを鑑み、「金融インフラストラクチャ事業」に含めて記載する方法に変更しております。

また、収益の分解情報の区分についても、これまで「ソリューションビジネス」に含めておりましたクレジット事業について、同様の理由により、「クレジットインフラストラクチャビジネス」の区分を追加して記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。